

脳大成理論補足_2

【筆跡プロファイリング】

脳大成理論では、筆跡によってクライアントの性格を分析するという筆跡プロファイリングという技術があります。筆跡プロファイリングのルーツは、元々は『筆跡分析学～グラフオロジー～』からきています。筆跡分析学は、ヨーロッパで発祥しました。ヨーロッパでは、日本でいう弁護士と同じくらいの権威がある資格だそうです。

ご承知の通り、日本は印鑑という文化ですが、欧米では、自分のサインが日本での印鑑と同じ意味と効果を持ちます。ですので、本当に本人のサインなのかという事は日本でいう本人が印鑑を押した事と同じ意味なのです。もし筆跡を当人の真似して他人が書いたとするなら、事によっては大変です。ですので、本当にその人の筆跡なのかを分析する専門家が必要なのです。

筆跡分析学では、約280行程ほどのチェック項目から本人の筆跡かどうかを診断します。解析に要する期間は1ヶ月以上かかるそうです。ですが、カウンセリングの現場では1ヶ月もかけていられません。アドバイスを求められた事、聞かれた事に対してその場で返答、判断しなければなりません。ですので、専門的な約280のチェック項目から、カウンセリング現場に活用するためという目的用途に絞り、約12項目にまとめたものが筆跡プロファイリングです。

【筆跡は自分の延長である】

人が最も興味がある対象は「自分自身」です。あらゆる認識の対象は、自分にまつわる事なのです。脳大成理論では、デフォルトモードネットワークというシステムで説明しています。例えば、「相手が気になる」という事も、厳密にはその人と対峙した時の自分の心の反応に、関心や注意が向けられているのであって、相手への興味ではありません。

筆跡の効果性についての例え話ですが、ある会場に同姓が多数いたとします。例えば田中さんだとしましょう。三十名以上いる田中さんに、紙に名字を書いてもらいます。そして田中と書かれた用紙を回収し、混ぜます。そして一枚ずつ「この田中さんは誰が書かれましたか?」と見せたとして、必ず自分の書いた字を判別することができます。

これは想像して頂ければお分かり頂けると思います。

つまり、筆跡は自分の延長という認識になるのです。ですので、筆跡から自身の傾向を言い当てられるというのは、言われた側としては非常に納得が行くのです。ですので、様々なリーディングツールがある中で、筆跡プロファイルというツールのは、他のリーディングのツールよりも効果的だと言えます。なぜなら、自分との関係性が明白だからです。

筆跡プロファイリングを身につけ、効果的なアドバイスを行っていきましょう。
次の項目に注目することで、見事にクライアントの傾向性をプロファイルできます。

【分析する項目】

- ①【マージン・余白】元来はメモをするためのもの。思考の進捗が現れる
- ②【スピード】せっかちorきっちり。仕事を丁寧にor早く終わらせる
- ③【気前の良さ】払い、文字の終わり方
- ④【コミュニケーション能力】読みやすさ。字の下手・上手ではない
- ⑤【筆圧】バイタリティ。押しが強い、自信の現れ。健康を害してくると弱くなる
- ⑥【字の丸み、尖った感じ】親しみやすさ。初対面での相手の印象
- ⑦【字の大きさ】外向性 or 内向性、自分自身が出せるか出せないか
- ⑧【ベースライン】ポジティブorネガティブ。上向きに書くのはパワーが必要。字ひとつにも現れる。突然の事を起こす人のベースライン。達成まで惜しい人のベースライン
- ⑨【プライド】上下の大きさ、文字の高さ
- ⑩【寛容さ】文字を詰めて書く人、幅を空けて書く人
- ⑪【やる気】横の線、びしっと書く人、音楽やっている人に多い
- ⑫【スラント】文字の傾き。左の傾きは感情のブレーキを現す

以下は筆跡プロファイルの追記事項です。以下の項目にも留意しながら筆跡プロファイリングを行っていきましょう。

□字と字の隙間は考えている時間を表しています。隙間があるということは考えていたということです。

□紙に対する文字の書く位置：過去・未来を現す

左上から右下に向かって書いてきますので、用紙上では、左上が過去・右下が未来と定義できます。

□紙の使い方（縦・横）

縦は理論優先型であり、横は感性優先型です。

□字のスラントがめちゃくちゃな人は感情のコントロールが出来ていない人

□感情を抑圧している人はフォントのような字を書く人であり、ある日突然切れた！いなくなった！などの衝動的行動にでる可能性を持っている人です。

□最後は筆跡プロファイリングの観点から絵など様々なモノを直観や印象で読み取ることをやってみましょう。